

8年間のステロイド使用後に全身の浸出と歩行困難を経て登校を再開した9歳アトピーの経過 (9歳男児)

症例 ID : 001-09-YY7 | 記録日 : 2015 年 12 月 11 日

1. 診断・治療前経過

乳児期から8歳頃まで、頭部、目の周囲、首、耳、腕、手指、背中、陰部周囲、足に湿疹がみられ、皮膚科でステロイド外用薬を週2〜3回、約8年間使用しました。

8歳頃から外用薬を使用しても症状が軽くなりにくくなりました。他院でステロイドを中止し、保湿剤と顆粒の漢方薬を使用しましたが、強いかゆみにより食事、宿題、授業が難しい状態が約半年続いた後、松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期から全身各部の湿疹にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	約8年間、週2〜3回です。
中止時期	8歳頃、松本医院受診前に他院の指導で中止しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
乳児期〜8歳頃	来院前	頭部から足まで複数部位に湿疹があり、ステロイド外用薬を使用しました。
8歳頃	中止	ステロイドが効きにくくなり、他院で中止しました。
その後約半年	症状の強い時期	強いかゆみで服を着られず、食事、宿題、授業、睡眠が難しい状態が続きました。
2015年	治療開始	松本医院を受診し、煎じ薬、外用処置、漢方入浴などを開始しました。
4月20日頃	首の症状	首の皮膚が剥がれ、首を曲げられず、風が当たるだけで痛みがあり、登校できなくなりました。
5月中旬頃	全身症状	全身のかゆみと皮膚の剥がれが強く、服を着られず、入浴も数分しかできない状態となりました。
治療中のピーク	歩行困難	膝裏の症状で足を曲げられず、歩行やトイレへの移動ができなくなり、太ももから足首まで浸出液と出血が続きました。
9月頃	生活変化	膝裏と首に皮膚ができ、服を着て自分でトイレへ行けるようになり、送迎を受けながら登校を再開しました。
2015年12月	途中経過	湿疹は残り、調子の悪い夜は4〜5回起きていましたが、治療を継続していました。

4. ピーク時期

ピークは、全身の皮膚が剥がれて服を着られず、膝裏の症状で脚を曲げられないため歩行できず、太ももから足首まで浸出液と出血が続いた時期です。

5. 困りごと

- ・強いかゆみにより食事、宿題、授業、睡眠が難しくなりました。
- ・首の痛みで首を動かせず、学校へ通えない時期がありました。
- ・膝裏の症状で歩行できず、トイレまで抱えて移動する必要がありました。
- ・服を着られず、座った姿勢のまま眠る時期がありました。

6. 経過のまとめ

全身の浸出、出血、落屑と歩行困難を伴う強い症状を経ましたが、9月頃には服を着て自分でトイレへ行けるようになりました。

送迎を受けながら学校への登校も再開しました。2015年12月時点では湿疹と夜間覚醒が残っており、治療を継続していました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。